

イネもみ枯細菌病菌による 移植後稲株の腐敗消失症状の発生と防除対策 (採種圃・自家採種農家を対象)



稲株の腐敗を防ぐには、
イネ幼苗腐敗症を防除！



みかけ健全苗だがよく見ると

**この病気は
種子伝染します**

(幼苗腐敗症が発生した苗の移植で稲株腐敗が発生します)

**採種圃などでは
防除対策の徹底を！**

は種時覆土前に
カスミン粒剤または
カスミン液剤

- ・ 薬剤防除
- ・ 適切な育苗管理

高温で発生しやすいので
ハウス育苗では要注意

移植すると



イネ幼苗腐敗症(育苗期のもみ枯細菌病)



特定の条の稲株が連続して腐敗し、消えてゆく！

イネもみ枯細菌病の特徴・生態

これまで知られていなかった症状

イネ幼苗腐敗症

稲株の腐敗
軽症株は分けつ抑制 もみ枯症



種子伝染

・症状なし。

・一見健全に見える。
・茎基部の褐変、白化、葉の白化等の症状が特徴。
・坪状発生する。

・重症株：移植後2週間程度で腐敗消失。
・軽症株：分けつ抑制。
・数株連続して発生。
・発病は特定の育苗箱の苗に由来。

・もみ枯症。
・もみに発病しない病原菌も存在。

防除対策（イネ幼苗腐敗症の防除）

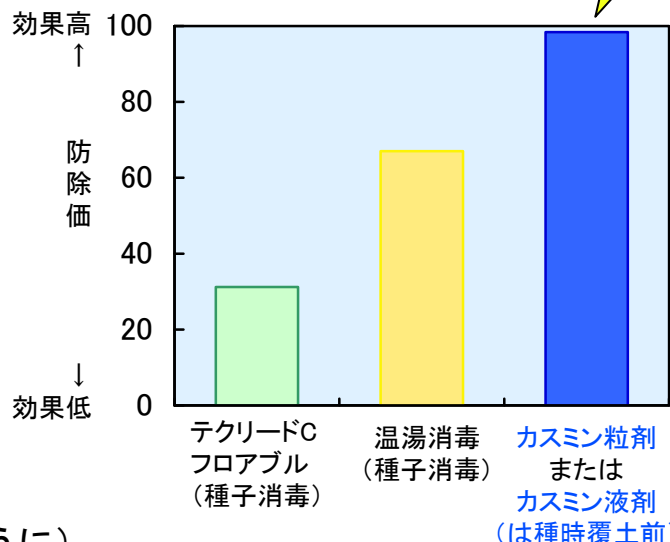
稲株腐敗を防ぐには、イネ幼苗腐敗症の防除を行きましょう！

1 薬剤および使用方法

カスミン粒剤
(15-20 g/箱, は種時覆土前)
または
カスミン液剤
(4倍, 50 ml/箱, は種時覆土前)

- ※ ・稲株腐敗(もみ枯細菌病菌)に対する農薬登録はありません。
- ・これまでと同様に、ばか苗病やイネシンガレセンチュウ等の防除に種子消毒が必要です。

薬剤の防除効果 **よく効く**



2 適切な育苗管理（高温で発病しやすい）

- ・適切な出芽温度（32℃を越えないように）
- ・適切な育苗温度（とくにハウス育苗では注意）

(問い合わせ先)
鳥取県農林総合研究所 農業試験場 環境研究室
TEL : 0857-53-0721

※ 本書から転載複製する場合には必ず農業試験場の許可を受けて下さい